（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	KIZUNA 調布			
○保護者評価実施期間	2024年　8月　26日	～	2024年　9月　10日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	25	（回答者数）	21
○従業者評価実施期間	2024年　8月　26日	～	2024年　9月　10日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9	（回答者数）	9
○事業者向け自己評価表作成日	2024年　9月　25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童指導員、社会福祉士、保育士、児童福祉事業経験5年以上、理学療法士といった職員が常勤で療育にあたっている。	・専門職員（PT・OT・ST・心理士）については非常勤職員も積極的に配置し、常勤職員の公休日にも質が落ちないように工夫している。	・専門職については配置のみではなく、より専門性を活かしたプログラムが実施していけるように、研修等を交えて専門性を高めていきたい。
2	・時間は1時間と短いが、1クラス2-3名の児童に対し、職員3-4名で手厚い療育を、運動・感覚といった分野に力を入れて専門的に行っている。	・可能な限り、年齢や課題の似た児童をクラス編成し、プログラムの中で、それぞれのお子さんが成長に繋がるように工夫している。	・児童発達支援および放課後等デイサービスの多機能型で実施しているため、毎年新学期にクラスの異動があるため、早めのクラス編成を行うことで、保護者の要望にもできるだけ応えていきたい。
3	・請求業務を外部委託することにより、費用はかかるが、その分職員が現場に集中できている。	・委託業者と日々連携を取ることで、請求時期に職員が無駄な時間を取られることのないように工夫している。	・DX推進の一つでもある電子化を進める中で、業務ソフトを年度内に導入し、更なる業務効率を図ることで、療育の時間に充てていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・児童福祉事業の経験年数が少ない職員が多いため、資格を十分活かして日々の療育にあたることが難しい。	・経験豊富な職員を研修担当として、非常勤として配置をするなど工夫している。	・社内研修の充実を図りつつ、外部研修へも積極的に参加できるよう体制を整えていく。 ・日々のミーティングが最も重要な研修にも繋がるため、職員間で意見の出し合える環境をより構築していく。
2	・保護者との面談スペースが十分に確保できていない。	・事務室内に面談用のスペースを設け、移動式のパーテーションで仕切り、東京都にも承認のうえ、工夫して保護者との面談を行っている。	・構造的な問題が大きいため、すぐには難しいが、現在の更衣室を面談室に変更するなど、今年度内に方向性を決めていく。
3	・ほとんどの書類関係を、Excel、Wordといったツールを使い管理しているが、得意不得意があり、時には業務に支障きたすことがある。	・VBAやマクロを使用し、できるだけ簡単に書類作成や管理業務が行えるように工夫している。	・年度内には業務ソフトを導入し、業務効率化を図ると同時に、その時間を療育関係に充てていく。